

『Mind Charging』

第 128 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 10 月 5 日

八村 塁の名言



まだ、夢を叶えたわけじゃない。

テレビ CM の中で流れる八村選手の言葉です。また、この CM 内で過去の自分に『ありがとう。バスケ辞めないでくれて。』という素敵な言葉も残っています。部活動や自分の中で継続して取り組んでいることがある人は、八村選手と同じように『続けていたからこそ』味わえた感動があるのではないのでしょうか。

素晴らしい体格に恵まれ、日本最高の高校生プレイヤーとして活躍後、世界一のバスケットボールリーグであるアメリカ NBA の選手として活躍している現在の彼は、バスケットボール界において紛れもなく最高の舞台にいるわけであり、完全に夢を叶えた人に見えます。ですから、今回の言葉のように『まだ』という彼の気持ちに驚きを感じます。彼にとって『夢』である自分自身の目指す最高値というものは一体どこに設定されているのでしょうか。

もちろん NBA 選手になることも彼にとって大きな夢の一つであったことは間違いないはずです。そういう意味では夢を叶える最中であり、夢の途中ということだと思います。夢の途中とはまさに『夢中』ということであり、夢中になっている時は周りの雑音が耳に入らないほど“集中している”ということでもあります。現状でも素晴らしい成果だと思いますが、彼にとってはそれさえも通過点に過ぎないということですから、彼の向上心や能力の高さにはそれだけ圧倒的なものがあることを感じざるを得ません。そして、そのくらい夢中で取り組むことが大切なのだと彼の活躍から改めて感じさせてくれます。

本校の校訓である『選択専修』の専修(せんじゅ)とは“ひたすらに打ち込むこと”という意味です。私たちも八村選手に負けないくらい打ち込んで自分の夢を叶えていきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

八村 塁(はちむら るい、1998 年(平成 10 年)2 月 8 日 -)は、日本の男子バスケットボール選手。富山県富山市出身。身長 203cm、体重 104.3kg、父親がベナン人、母親が日本人。ポジションはパワーフォワード/スモールフォワード。2019 年の NBA ドラフト一巡目でワシントン・ウィザーズより指名を受けた(全体 9 位)。富山県富山市で日本人の母・麻紀子とベナン人の父・ザカリの長男として生まれ、幼少時は陸上の短距離と野球をやっていた。陸上では 100m 走で全国大会に出場した。野球では投手と捕手を兼任しており、イチローに憧れていた。強肩であったため球速も速く、捕手で盗塁を阻止していたが、あまりにも球が速いため子供では捕球できなかった。そのためキャッチャーに転向したが成長痛による膝の痛みで野球から離れる。(Wikipedia 参照)